

令和3年度の事業報告書

令和3年4月1日から令和4年3月31日

特定非営利活動法人 静岡団塊創業塾

コロナ禍のため「シニアライフ支援センター・くれば」は一昨年3月以降閉館を余儀なくされた。二年以上を経て、ウィズコロナの時代となった。リアルな居場所での活動はほとんどできなかったが、ビデオ会議システムZOOMを使った「オンライン居場所」は継続できた。感染状況に配慮し「くれば」をZOOMサテライトとし、現在は部分的に開館している。

令和3年度の特記事項は、念願だった「NPO設立10周年記念誌」を発行できたことと、静岡市と静岡県から業務委託され、「DX支援事業」を担当できたこと、及びコロナ禍で始まった屋外活動「くればウォーキング」の継続開催である。

コロナ禍の制約のなか、「地域デビュー支援事業」は、沼津市と袋井市で開催できた。

1. 特記事項

(1) 10周年記念誌事業

令和2年6月に構想検討を開始、令和3年5月の通常総会にて持続化給付金を使った記念誌発行の承認を得た。以後本格的な制作活動を開始、原稿執筆依頼、各種インタビュー、記念誌名の公募、編集委員会の定期的開催等を経て、令和3年11月に発行にこぎ着けた。1000部印刷し、県内35市町の行政と社協に配布。過去に団創に所属された全てのOBと現会員に配布したほか、過去に関係した団体や個人、一部の会員から希望があった関係者に全て無料でお配りした。

過去の出来事を客観視して意味づけすることで、我々の活動の柱となる「4つの合い言葉」を紡ぎ出すことができた。今後地域デビュー支援事業等で活用していく。(現在の残部数：約200部)

(2) DX支援事業

①静岡市事業（受注金額：985.6千円）【デジタル化推進課主催】

シニアのデジタルデバインド対策として、インターネット活用の典型的な事例紹介として『ミーティングアプリZOOMの体験講座』を行った。各地の生涯学習施設、S型デイサービス会場等12か所で実施した。事前に会員有志で構成するプロジェクトチームを立ち上げ、打合せしたほか、メンバーには現地体験会にZOOMで参加して自身の体験談を語ってもらった。メイン講師は「しずおかパソコンサポート」を運営する会員の北楯、勝田両名にお願いした。

②静岡県事業（受取金額：321.9千円）【健康局健康増進課主催】

ネット活用を促す「新たな生活様式に対応した健康づくり事業」に協力した。

- (1) 『オンライン活用セミナー』で、団創の「オンライン居場所」の事例紹介を行った（原田、大原の二名が、下田、浜松、沼津、でオンライン参加、静岡で現地参加した）。
- (2) 『オンライン「通いの場」交流会（ZOOM）』のファシリテーターを担当した。県内各地で居場所運営に関係する方、行政担当者が127名同時に参加し、団創会員5名（原田、大原、杉山吉、鈴木秀、加藤）で進行した。

(3) 「くれば」ウオーキング活動

R2年10月に初回を開催したウオーキング活動を継続開催した。三密をさけるには屋外の活動が良いとの判断のもと、猛暑の時期を避け、県内各地に足跡を残した。

2. シニアライフ支援センター「くれば」運営

(1) ミニセミナー事業

「オンライン居場所」にて、セミナーとサロンを試行し、「川柳会」「朗読会」「ピンピンコロリ研究会」等、定期開催プログラムを継続中。毎週日曜日にプログラムをMLで通知している。

(2) 歌声喫茶

「新さんの歌声喫茶」もオンライン居場所で継続中。後半は「くれば」サテライトを活用したハイブリッド方式の人気企画となっている。

(3) NPO事業企画会議

「おしゃべりサロン」として機能を代替しようとしたが、リアルでの最大の魅力「持ち寄りパーティー」が無いため中断。今後新企画を模索したい。

(4) ランチ会

「くれば」閉館中のため今年度も開催されなかった。

(5) レンタル事業

今年度の開催は無し。

(6) 自治会研究班活動

活動休止中。

(7) でん伝体操活動

平成30年度から自主活動団体として登録し、毎週水曜日の午前中に継続開催、4年が経過した。コロナ禍でも感染対策を講じ現在はハイブリッド方式で継続中。

(8) 寸劇事業

シニア劇団くれば座は、活動休止中。

3. 地域デビュー支援事業

令和3年度の本事業の実施結果を下表に示す。

(1) セミナー形式で実施分

※会員数名が「事例紹介」としてオンラインで登壇。講師は原田が担当。

場所	日程	イベント名	結果
沼津市	6月： 昼3回	セカンドライフセミナー	参加者16名。「DSプエルト」さんの全面協力をいただく。
袋井市	7月： 昼3回	ライフシフトセミナー	参加者は12人。サブ講師として鈴木秀さんがオンライン登壇。

(2) 講演形式で実施分

無し

4. シニア劇団「くれば座」活動

団員がZOOMで交流、外部公演は無し。

5. 外部機関との関係構築、ピアール活動

(1) 静岡大学須藤先生とコラボ

静岡県大学の大学教育センター須藤准教授との連携を継続。卒論のための学生の団創会員へのインタビュー、ユニバーサルデザインのアンケート協力、等。

また須藤氏に作っていただいた「川柳会」で使用する投稿フォームは絶賛活躍中。

(2) 「くれば」視察受け入れ

無し

(3) その他の外部ピアール

静岡市や静岡県主催事業において、団創や10周年記念誌の紹介をした。全体のファシリテーションをしながら、『イベント型居場所』をピアールした。

6. 情報発信活動

(1) メールマガジン発信

毎月25日に継続発行し、現在85号となった。ZOOMイベントの実績や、各種行事等の告知をしている。我々の活動に関心のある方々や退会者への情報伝達手段となっている。

(2) ブログ発信

継続しているオンライン居場所活動を中心に10件/月程度アップしている。ホームページにリンクするので一般の方の目に触れる可能性も高い。

(3) 「くれば」予定表の配架

オンライン居場所中心だが、サテライト部分開館したのでR3年4月より再開した。

7. 会員数の推移

令和3年度は活動が制約される中、4名の方が入会されたが20名の方が退会され現在87名となった。「くれば」での活動を徐々に増やし、会員増に結びつけたい。

静岡団塊創業塾が従来から取り組んでいる4仕掛け（会って、繋がって、磨いて、輝く）については、下記のような実績を残した。

(1) 人生100年サミット

令和4年1月に第4回を実施した。NPO法人設立10周年記念として開催、テーマは「熟年爽快：爽快な日々を過ごすコツ」、10年間の活動で得た成果を確認しあえた。理事長の原田が基調講演、演題は「爽快なシニアライフ、4つの合い言葉」。今回もハイブリッド開催し、運営のノウハウを蓄積できた。

(2) 定期交流会

くれば閉館のため、リアルな交流会は実施できなかった。その代わりにZOOMで行った、「オンライン居場所」活動がその役割を果たしたと考えている。

(3) 磨きあい塾

今年は2回（西島：ログハウスプロジェクト見学会、鈴木秀：バトンパスプロジェクト）実施した。様々な場面で会員同士磨きあう（≒相談しあう）方針は維持したい。

(4) 熟年セミナー

3－(1)のような「地域デビュー支援事業」を実施。受託数を増やすことが課題である。

上記事業を行うために、第一土曜日午後に定例理事会を12回、臨時理事会を1回行った。

以上

1. 居場所運営事業写真 (オンライン+リアル)



ZOOM「ピンピンコロリ研究会」



「くれば」サテライト (ハイブリッド歌声喫茶)

2. DX支援、地域デビュー支援事業写真



静岡県「オンライン通いの場交流会」記事



沼津市「セカンドライフセミナー」

3. その他事業の写真



「くればウォーキング」過去の足跡



人生100年サミット「熟年爽快」